



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとう きいんだん
公明党議員団

ひきこもり相談窓口設置の考えは

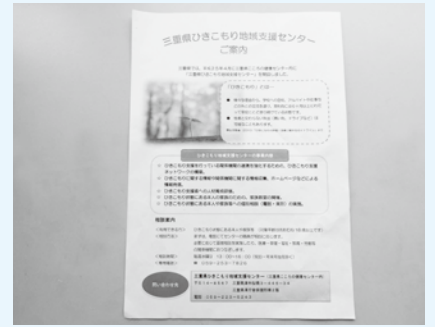
問 政府の調査によると、中高年層のひきこもりが、推計約61万人となり、7割以上が男性で、ひきこもりになった年齢は40歳以上が57.4%である。80代の親が50代の子どもを支える「8050問題」が深刻化してきている。しかし、悩み事に関し、「誰にも相談できない」とする回答が4割を超えている現状である。津市における「ひきこもり相談窓口」の早期の設置を望む。

ひきこもり相談ができることを周知していく

答 津市の取り組みとしては、生活困窮者の相談窓口でひきこもりの当事者の家族から状況を聞き取り、支援につなげている。生活困窮者自立支援制度による支援だけでなく、三重県ひきこもり地域支援センターを初めとするその他の支援機関による支援が適切である場合には、連携を図りながら、当事者や家族への支援を行っている。生活困窮者の相談窓口でもひきこもりの相談ができることを広く周知していくとともに、今後は相談の内容を分析し、津市としてのひきこもり相談窓口の在り方について考えていきたい。

●その他の質疑・質問●

- 報告第20号 専決処分報告
- 通学路の点検と危険箇所の対策は
- 男性職員の育児休業の取得状況は
- 教育委員会としてのひきこもり対策は
- 三重短期大学学長としてのビジョンは



▲津市におけるひきこもり相談窓口の早期設置を



すくり ひで あき
村主 英明

しみん
市民クラブ

中核市指定への検討状況と今後の見通しは

問 風格ある県都を目指す津市として、中核市の指定に向けて前向きに検討する市長の姿勢が1年前の議会で示された。その後の検討状況、今後の見通しは。中核市に指定されていない県庁所在都市は津市を含め6市のみとなった。検討開始から指定まで3年程度要することを踏まえれば、早く外向けに検討開始を宣言し、広く一緒に考えようと呼び掛けるべきではないか。

国体閉幕後、準備を進めていく

答 中核市で構成される市長会に参加し、情報収集をしており、津市における業務や保健所・児童相談所設置等の在り方について検討を進めている。現在、令和3年に行われる三重とこわか国体、三重とこわか大会という津市にとっての大きな事業があり、これをしっかり成功させることが、まずは大きな課題である。これらの事業が成功した後、今後の政策目標は必然的に津市の中核市指定へと移行していくと考えている。国体閉幕後、国体・障害者スポーツ大会推進局の職員50名程度は所属先が異動となる。その人材を生かし、中核市指定に向け、今後準備を進めていく。

●その他の質疑・質問●

- 市政に関する基本的事項を条例として定めるべきではないか
- 大地震発生時の人的被害の軽減について（耐震改修促進計画の進捗状況と達成の見通しは。さらに踏み込んだ対策を）
- 学校のトイレ環境の整備（洋式化の促進）について
- 風力発電事業について（建設後数十年という時間軸を持ってその影響を評価すべき）



▲風格ある中核市を目指すべき